

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊田工場B4棟Ⅲ期	階数	地上4階
建設地	愛知県豊田市鴻ノ巣町一丁目41-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	133 人
気候区分	5地域	年間使用時間	2,085 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2018年10月10日
敷地面積	42,371 m ²	作成者	加納 康博
建築面積	2,253 m ²	確認日	2018年10月10日
延床面積	4,080 m ²	確認者	加納 康博



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	85%
③上記+②以外の	85%
④上記+	85%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>52.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	52.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	52.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

あいちの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性				3.8	0.29		-	3.8
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31		-	
1 階高のゆとり			階高がH=4.56mある	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性				4.2	0.38		-	
1 空調配管の更新性		②	仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕ができる	4.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性			構造材を痛めることなく、更新・修繕ができる	4.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性			仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕ができ	5.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性			仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕ができる	5.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性			マシンハッチが確保され、かつ更新・修繕時に建物機能を維持出来る状	5.0	0.22		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37		-	2.6
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.6
LR1 エネルギー					0.40			3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.68	5.0	0.08		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.26		-	3.0
3 設備システムの高効率化			LED・高効率空調機採用	3.2	0.40		-	3.2
4 効率的運用				4.0	0.27		-	4.0
集合住宅以外の評価				4.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			用途別エネルギー消費の内訳を把握して、妥当性が確認できる	4.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			運用・維持・保全の基本方針が計画されている	4.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-		-	-
4.1 モニタリング				-	-		-	-
4.2 運用管理体制				-	-		-	-
LR2 資源・マテリアル					0.30			4.1
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			節水器具を採用している	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				4.2	0.63		-	4.2
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	デッキ(2階・3階・4階)	5.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	吸音材・ビニル床材・フリーアクセスフロア	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	評価ポイントの合計値が2ポイント	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22		-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材が4項	5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	-
2 発泡剤(断熱材等)			発泡材を用いた断熱材等を使用していない	5.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2換算値:82%	3.6	0.33		-	3.6
2 地域環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		独自	評価ポイントの合計値が4ポイント	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			評価ポイントの合計値が5ポイント	5.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音		独自		3.0	0.33		-	
2 振動		独自		3.0	0.33		-	
3 悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				3.0	0.30		-	
3 日照阻害の抑制				4.4	0.20		-	
3.3 光害の抑制				5.0	0.70		-	
1 屋外照明及び屋内照明のつち外に漏れる光への対策			評価ポイントの合計値が4ポイント	5.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.2	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.11	外構緑化:52.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 自動車部品を製造する工場である。 エネルギーのランニングコストが低く抑えられるように設計した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質による空気汚染を防止している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 2階会議室等にOAフロアを採用し、メンテナンスのしやすさを重視した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 屋上に将来用の設備スペースを設け、道路面からの視界を避け、騒音・景観を配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 空調(工場)に都市ガスを使用し、電気量を抑えるよう考慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自動水栓、人感センサー、節水機器を用いることで、水資源を保護している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緊急貯留槽を設置し、汚染水が流出しないように計画している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 建設工事期間中は、分別リサイクルボックスを設ける。